

名古屋ハリストス正教会
神現聖堂 5 周年記念

主教聖体礼儀

2015 年 1 月 25 日

第 32 主日 (ザクヘイの主日)

第 8 調

聖体礼儀

輔祭 君よ、祝讃せよ、

司禱者 父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今も何時も世世に、

(詠) アミン

[大連禱]

輔祭 我等安和にして主に禱らん、

(詠) 主 憐めよ

輔祭 上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に禱らん、

輔祭 全世界の安和神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に禱らん、

輔祭 此の聖堂、及び信と慎みと神を畏る心とを以て、此に来る者の為に主に禱らん、

輔祭 教会を司る我等の主教(某)、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に禱らん、

輔祭 我が国の天皇及び国を司る者の為に主に禱らん、

輔祭 此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て、此の中に居る者の為に主に禱らん、

輔祭 気候順和、五穀豊饒、天下泰平の為に主に禱らん、

輔祭 航海する者、旅行する者、病を患うる者、^{かんなん}艱難に遭う者、^{とりこ}虜となりし者、及び彼等の救いの為に主に禱らん、

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るが為に主に禱らん、

輔祭 神や、^{なんじ}爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・^{しょうしんじょ}生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、^{ことごと}并に ^{いのち}悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主 爾に

司祭 (高声) 蓋凡そ光栄尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

大連禱

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主 なんじに アミン

ルーマニア調

1 2,7

アミン 主 あわれめよ 主 あわれめよ
 Doamne mi lu e - ste Doamne mi lu e - ste

3,8 4,9 5,8

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主 あわれめよ
 Doamne mi lu e - ste Doamne mi lu e - ste Doamne mi lu e - ste

6,9

主 あわれめよ 主 なんじに アミン
 Doamne mi lu e - ste Tie doam - - - ne

[第1アンティフォン] 第102 聖詠 トロパリ1調(Russian Greek chant)のメロディによる arr.Nina Harada

<主宰の祭日は変わる>

我が^{たましい} 霊^{たましい} や、主を 讃めあげよ、主や爾は 崇め讃めらる

我が^{たましい} 霊^{たましい} や、主を 讃めあげよ、我が 中 心^{中心} や、

その聖なる名を 讃めあげよ、我が^{たましい} 霊^{たましい} や、主を 讃めあげよ、

彼が ことごと 捧ん 恩^{捧ん} を わす 忘るる なかれ

かれは なんじが もろもろの 不法を ゆるし

なんじが もろもろの やまい 疾^{やまい} を いやす 光 栄^光 は 父と子と

せいしん 聖神 に 帰す
いまも いつも 世世に アミン

我が たましいや、 主を 讃めあげよ、 我が 中心や、

その聖なる名を ほ 讃めあげよ、 主や爾は 崇め讃めらる

[小連禱]

輔祭 我等復又安和にして主に禱らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭 蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主なんじに アミン

こゝろ えい せいしん
光 栄 は 父 と 子 と 聖 神 に 帰 す

たましい
我 が 霊 や、 主 を 讃 め あげ よ、 我 生 け る う ち

ほ いのち
主 を 讃 め あげ よ、 我 生 命 あ る う ち 我 が か み に う た わ ん

ぼく はく よる なか れ 救 う あ た わ ざ る 人 の こ に 依 る なか れ

いき た ち
彼 息 絶 え れ ば 土 に か え り お よ そ

かれ が は か る と こ ろ は そ の 日 に 消 ゆ

主 は 永 遠 に 玉 と な ら ん シ オ ン や、 爾 の 神 は

世々に王とならん 今も何時も^{いつ}世々にアミン

[神の独生子]

トロバリ6調のメロディによる

神の独生子 並びに ことばや、 死せざる者にして 我等を

救わんがため 甘んじて 聖なる生神女 永貞童女マリヤより 身をと

神の性を^か易えずして 人となり 十字架に^く釘打たれ

死を^{もつ}以て 死を^ふ踏み破りし ハリストス ^かみや、 ^{せいさんしゃ}聖三者の

^いつとして 父と^{せいしん}聖神とともに ^{さんえい}讃栄せられるる 主や、



[小連禱]

輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

(詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭 蓋國と権能と光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、(詠)「アミン」



主よ、なんじの国に来たらんとき 我等を憶いたまえ

心の貧しきものはさいわいなり 天国は彼等のものなればなり

泣く者は^{さいわい}福なり、／彼等は^{なぐさめ}慰を得んとすればなり。

溫柔なる者は^{さいわい}福なり、／彼等は 地を嗣がんとすればなり。

義に飢え渴く者は^{さいわい}福なり、／彼等は^あ飽くを得んとすればなり。

矜恤ある者は^{さいわい}福なり、／彼等は^{あわれみ}矜恤を得んとすればなり。

心の清き者は^{さいわい}福なり、／彼等は 神を見んとすればなり。

和平を行う者は^{さいわい}福なり、／彼等は 神の子と名づけられんとすればなり。

義の為に^{きんちく}窘^{さいわい}せらるる者は福なり、／天国は 彼等の^{もの}有なればなり。

人我が為に^{なんじ}爾等を^{のし}詬^{きんちく}り^{なんじ}窘^{いつわ}遂し、／爾等の事を^{いっわ}諷^{もろもろ}りて 諸の^{ことば}悪しき言を
言はん時は、^{なんじ}爾等^{さいわい}福なり。

よろこび たのしめよ 天には^{なんじら}爾等の^{むくい}賞 多ければなり

第3アンティフォンの最後に、福音経などを捧持した輔祭、司祭、副輔祭、堂役などは決められた順序に従って至聖所から出てカフェドラの主教の前に並ぶ。

[小聖入]

輔祭 主に祈らん、

長輔祭 (福音経を左肩におき、右手にオラリをかかげて) 尊貴なる主宰や、聖入に祝福せよ。

主教 (黙唱ののち) 爾の聖者の入るは常に崇め讃めらる、今も何時も世世にアミン。

(主教福音経に接吻。主教ディキリ・トリキリを受け取る。)

輔祭 (福音経を掲げ、それで十字を描き) 睿智、謹みて立て。

神品全員で「来たれハリストスの前に Приидите をゆっくり歌う。輔祭福音経に炉儀。主教は福音経に向かって躬拝し、ディキリ・トリキリで祝福。主教ディキリ・トリキリで西、南、北、三方向の信徒を祝福。司祭はソレヤに残る。主教カフェドラから降りてアムウォンに上がるころ。(詠)、「来たれハリストスの前に」を神品の歌にかぶせて歌い始める。

来たれ ハリストスの ま—えに 伏しおがま—ん

かみの子 死より 復 活 せし 主や、

なんじ 爾にアリルイヤを たまつ るものを すくいたま—え。

※祭目では「死より復活せし主や」が「生神女の祈祷によって」「聖人に厳かに現るる主や」などに変わる。

※主教祈祷の時

(詠)が「神の子、死より復活せし」を歌うころ、主教はディキリ・トリキリで信徒を祝福し、至聖所に入る。

トリキリを持つ長輔祭とともに、宝座、奉献台、高座、司祭に炉儀、ソレヤに出る。

司祭、宝座に接吻。主教王門、イコノスタス、教衆、信徒、左右のイコンに炉儀、至聖所に戻り、宝座、司祭輔祭に炉儀。

この間(詠)「イスボラ」を主教の動きに合わせて、ゆっくり、歌う。

イス・ボラ ポルトニャンスキー 作曲

イス ボ ラ エ ティ デ ス ボ タ イ ス ボ ラ

エ ティ デ ス ボ タ イ ス ボ ラ エ ティ デ ス ボ タ

ニコハラ4声

イス ボ ラ エ ティ デ ス ボ タ イ ス ボ ラ エ ティ デ ス ボ タ

T B

主日トロパリ

トロパリ 八調

めぐみふかき主や、なんじはたかきよりくだり、三日の

The first system of the musical score consists of two staves, a treble clef on top and a bass clef on the bottom. The melody is written in a simple, homophonic style. The lyrics are written below the notes. There are two repeat signs (double bar lines with dots) in the middle of the system.

葬^{ほう}むりを受け^うてわれらを苦し^{くるし}みよりときたまえり、

The second system of the musical score continues the melody from the first system. It also consists of two staves. The lyrics are written below the notes. There are two repeat signs in the middle of the system.

わがいのちとふくかつなる主や、光^{こう}えいはなんじに帰^きす

The third system of the musical score concludes the melody. It consists of two staves. The lyrics are written below the notes. There are no repeat signs in this system.

- ♪ 光栄は父と子と聖神に帰す
神現聖堂のトロパリ】 1調
- ♪ 今も何時も世々にアミン
ニコライのトロパリ

主よ、なんじが イオルダンに 洗を 受くるとき

聖三者の 敬拝は ^{けいはい} 顕れ ^{あらわ} たり けだし 父の ^{ちち} こえ

爾を証して 至愛の子と名づけ 聖神も 鳩の形に ^{あらわ} 顕れて

^{ことば} 言の 確かなるを示せり。あらわれて 世界を 照らしし

ハリストス かみよ 光栄は なんじに 帰す。

♪今も何時も世々にアミン
【亜使徒聖ニコライのトロパリ】

使徒とひとしく同座なるもの

忠実にして神智なるハリストスのえき者聖なるしにえらばれたるゆえ

ハリストスの愛にみちたるうつわわが国の光照者

聖使徒、主教、聖ニコライよ、なんじの牧群のため

および全世界のためにいのちを保つ聖三者に祈りたまえ

主教 蓋我が神や爾は聖なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も、

輔祭 主や敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給へ。

(詠) 主や敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給へ。

Musical notation for the text "主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聴きたまえ". The notation is written on a grand staff with a treble clef on the top staff and a bass clef on the bottom staff. The key signature has one flat (B-flat). The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the notes.

輔祭 世世に

(詠) アミン

[聖なる神]

主教の動きに注意

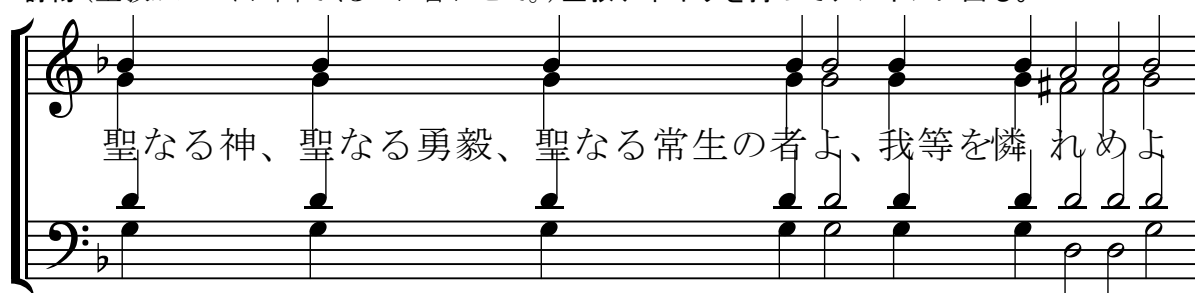
1. 詠隊



聖なるかみ 聖なる勇毅 聖なる常生のものよ われらをあわれめよ

2. 神品 Святый Боже, Святый Крепкий, Святый Бесмертный, помилуй нас.

3. 詠隊(主教がソレヤに出てくるのに合わせて。)主教ディキリを持ってアンボンに出る。



聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐れめよ

4. 主教祝文、聖詠 「神よ、天より臨み見て、この葡萄園に云々・・・」。主教の降福。「聖なる神」のとき西、「聖なる勇毅」で南、「聖なる常生の者」で北。

(女声三部)



聖なるかみ 聖なる勇毅
せいなる常せい のものよ われらを あわれめよ

5. 詠隊(速く軽く歌う)



聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐れめよ

6. 神品は至聖所で「聖なる神」Святой Боже, Святой Крепкий, Святой Бесмертный, помилуй нас.

7. 詠隊（速く軽く歌う）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も 世世に アミン

聖なる常生の者よ、我等を 憐れめよ

8. 詠隊

スヴィヤ テイ ホー ジェ スヴィヤ テイ クレー プキー

スヴィヤ テイ ベス メルト ウタイ ポ ミー ルイ ナース

[主日ポロキメン]

8調

主 我が 神に 誓い をな して つぐな えよ

[使徒経の読み]

輔祭 睿智

誦経 聖使徒パウエルが〇〇人/〇〇の教会に達する書/聖使徒〇〇の公書の読み、

輔祭 謹みて聴くべし、

誦経 (使徒経を読む)

[福音前のアレルイヤ]

主教 爾に平安

誦経 爾の神にも、アレルイヤ、アレルイヤ、アレルイヤ、

(詠) **アレルイヤ、アレルイヤ、アレルイヤ、** 3回繰り返す

8調

8調 アレルイヤ、アレルイヤ、アレルイヤ

[福音経の読み]

輔祭 君や、聖使徒及び福音者(イオアン)の福音を宣ぶる者に祝福せよ、

主教 願くは神、光栄にして讚美たる聖使徒及び福音者(イオアン)の祈祷によって、爾福音を宣ぶる者に多くの力ある言を賜はん、その至愛の子我が主イイスス・ハリストスの福音の行るるが為なり。

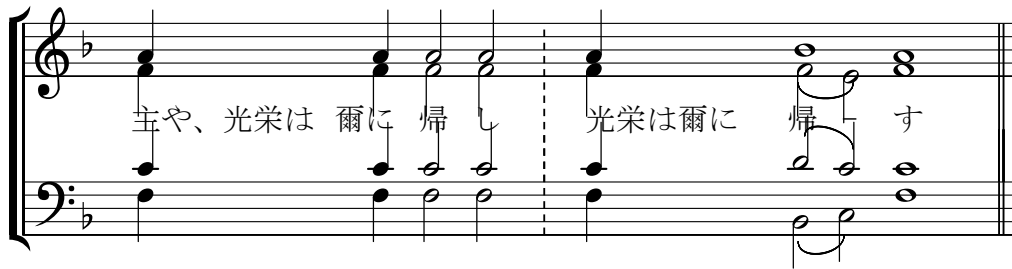
輔祭 アミン、睿智、謹み立て、聖福音経を聴くべし

主教 衆人に平安

(詠) **爾の神にも**

爾の神にも

輔祭 (イオアン)による聖福音経の読み



輔祭 睿智、謹みて聴くべし。(福音經を読む)

主教は高座から降り、王門を通してアムウォンに出る。長輔祭の持つ福音經に接吻。ディキリ・トリキリで信徒を祝福。このとき「イスボラ」を歌う。



(説教)

[重連禱]

輔祭 我等皆靈を全うして曰はん、我等の思いを全うして曰はん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 主全能者、吾が列祖の神や、爾に禱る聆き納れて憐めよ、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神や爾の大なる憐れみに因りて我等を憐めよ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、

(詠) 主憐めよ(3回)

輔祭 我が國の天皇及び國を司るものの為に主に禱らん、

輔祭 又教會を司る尊貴なる我等の東京の大主教全日本の府主教ダニイル及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に禱る、

輔祭 又我等の兄弟、諸司祭、諸修道司祭、及びハリストスに於ける我等の衆兄弟の為に禱る、

輔祭 又恒に記憶せらるる福たるこの聖堂の建立者、及び已に寐りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の為に禱る、

輔祭 又此の至尊なる聖堂に者を献り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ちて爾の大いにして豊なる憐を仰ぎ望む者の為に禱る、

司祭 蓋、爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何も世世に、

(詠) アミン



[死者の連禱] (必要に応じて)

輔祭 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、

(詠) 主憐めよ 三々

輔祭 又寝りし神の諸僕(某)の^{たましい}霊の安息のため、及び彼等に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんがために禱る、

(詠) 主憐めよ 三々

輔祭 主神が彼等の^{たましい}霊を諸義人の安息する所に入れ給わんことを禱る (詠) 主憐めよ 三々

輔祭 彼等に神の憐れみと天国と諸罪の赦とを賜わんことをハリストス我が死せざる王及び神に願う、

(詠) 主賜えよ

輔祭 主に禱らん、

(詠) 主憐めよ

司祭 (高声) 蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の諸僕某の復活^{いのち}と生命と安息なり、我等光栄を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命^{いのち}を施す爾の神^{しん}とに献ず、今も何時も世世に、(詠)「アミン」



[啓蒙者の連禱]

輔祭 啓蒙者や、主に祈るべし、

(詠) 主憐めよ

輔祭 信者や、啓蒙者の為に禱らん、願くは主は彼等に憐を垂れん、

輔祭 眞實の言を以て彼等を啓蒙せん、

輔祭 義の福音經を彼等に啓かん、

輔祭 彼等をその聖公使徒の教會に一にせん、

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、彼等を救ひ憐み佑け護れよ、

輔祭 啓蒙者や、爾等の首を主に屈めよ、

(詠) 主爾に

司祭 願くは彼等も我等と偕に、爾父と子と聖神の至尊至榮の名を讃揚せん、今も何時も世世に、

(詠) アミン

輔祭 衆啓蒙者出でよ、啓蒙者出でよ、衆啓蒙者出でよ、啓蒙者一人もなく、唯信者またまた安和にして主に祷らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ

輔祭 睿智

司祭 蓋、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に帰す、今もいつも世世に、 (詠) アミン

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主なんじに アミン

[信者の連禱]

輔祭 我等復又安和にして主に祈らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祷らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、

輔祭 此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来たる者の為に主に祷らん、

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祷らん

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、

輔祭 叡智

司祭 我等常に爾が権柄の下に護られて、光榮を爾父と子と聖神に献ずるが為なり、今も何時も世世に、 (詠) アミン。アミン

アミン アミン

[大聖入]ヘルビムの歌

ヘルワイムノ歌(第七)「ツアルスカヤ」

ボルトニャンスキイ作曲

The image shows a musical score for a piano and voice. It consists of two staves: a treble clef staff for the voice and a bass clef staff for the piano accompaniment. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is common time (C). The piano part begins with a piano (*p*) dynamic marking. The melody is written in a simple, folk-like style. The lyrics are written in Japanese characters below the notes. The first line of lyrics is 'ワ レ ラ' and the second line is 'ワ レ ラ オホ ミ ツ ニ シ テ'. There are some additional markings above the first few notes, including a '7' and a 'レ' with a horizontal line above it.

Handwritten musical score system 1. It consists of a grand staff with two staves. The music is in G major (one sharp) and 4/4 time. The lyrics are written below the notes. Dynamics include *f* and *ff*. The lyrics are: ハル ワム ヲ ヲ ハル ワム ヲ カ タ

Handwritten musical score system 2. It consists of a grand staff with two staves. The music is in G major and 4/4 time. Dynamics include *p*. The lyrics are: テ イ サ ン

Handwritten musical score system 3. It consists of a grand staff with two staves. The music is in G major and 4/4 time. Dynamics include *f*. The lyrics are: サ ン ノ ヲ タ ヲ イ ノ ヲ ヲ ホ ド コ ス

Handwritten musical score system 4. It consists of a grand staff with two staves. The music is in G major and 4/4 time. The lyrics are: サ シ ニ ヲ タ ヒ テ

Handwritten musical score system 5. It consists of a grand staff with two staves. The music is in G major and 4/4 time. Dynamics include *p*. The lyrics are: イ マ コ ノ ヲ ノ オ モ ン パ カ リ ヲ

p
 コ ト コ
 ト ク
 シ リ
 ツ グ

rit.
 pp
 p
 pp

ディスクスを持って

主教 願くは主神はその国に於いて、我が国の天皇及び国を司るものを常に記憶せん、今も何時も世世に、

主教 願くは主神はその国に於いて教会を司る我等の尊貴なる 主教、 を常に記憶せん、今も何時も世世に、

(詠) アミン ①

ポティールを持って

主教 願くは、主神はその国において常に記憶せらるる(某)記憶せん、今も何時も世世に、

主教 願くは主神はその国において爾衆正教のハリストティアニン等を常に記憶せん、今も何時も世世に、

(詠) アミン ②

1 主教ノキノミ
 2
 ア ミン
 ア ミン
 シノグノミヘズシテニ

Handwritten musical score for the first system. The treble clef staff contains the melody with lyrics: ナヒタ テマ ツル バン ユウ ノ ソウ ヲ イ タダ. The bass clef staff provides a simple accompaniment.

Handwritten musical score for the second system. The treble clef staff contains the melody with lyrics: カン ト スル ニ ヨ ル ア リ ル イ ヤ ア リ. The bass clef staff provides a simple accompaniment.

Handwritten musical score for the third system. The treble clef staff contains the melody with lyrics: ル ヤ ア リ ル イ ヤ. The bass clef staff provides a simple accompaniment.

主教はディキリ・トリキリで信徒を祝福、祝福にあわせて「イスポラ」を歌う。**そのままの調で**

Musical score for the hymn 'Ispora'. The treble clef staff contains the melody with lyrics: イ ス ポ ラ エ テ イ デ ス ポ タ. The bass clef staff provides a simple accompaniment.

(連禱でへ長調にとりなおす)

[増連禱]

輔祭 我等主の前に我が祈りを増し加へん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 献げたる尊き祭品の為に主に祈らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 子の聖堂及び信と慎みと神を畏るる心とを以て此に来たるものの為に主に祈らん、
 輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん、
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、
 輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、
 輔祭 我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、
 輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、
 輔祭 我等の生命の終が「ハリストティアノン」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの
 畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、
 輔祭 至聖、至潔にして、至りて讚美たる我等の光栄の女幸、生神女、永貞童女マリヤと諸聖人とを
 記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て並に悉くの我等の生命を以てハリストス神に
 委託せん、 (詠) 主爾に、
 司祭 爾の独生子慈憐に因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神^o と偕に崇め讚め
 らる、今も何時も世世に、 (詠) アミン
 輔祭 衆人に平安 (詠) 爾の神^o にも

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主 たまえよ

主 なんじに アミン なんじの 神にも

[安和の接吻]

輔祭 我等、互に相愛すべし、同心にして承け認めんが為なり、

ちち 父 と 子 と 聖 神 の 一 体 に し て 分 れ ざ る 聖 三 者 を

[信 経]

輔祭 門、門、敬みて聴くべし、

全員 我信ず、一の神・父 ^{かみ ちち}全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物 ^{ばんぶつ}を造りし主を。

又信ず、一の主イイスス・ハリストス ^{どくせい}神の獨生の子、萬世 ^{よろずよ}の前に父より生れ、光よりの光、^{まこと}真の神よりの^{まこと}真の神、生れし者にて造られしに非ず、

父と一体にして^{ばんぶつ}萬物彼に造られ、我等人人の為、又我等の救いのために天より^{くだ}降り、^{せいしん}聖神及び^{どうてい}童貞女マリヤより身を取り人となり、我等のために、ポンティ・ピラトの時 ^{くぎ}十字架に釘うたれ、苦しみを受け^{ほう}葬むられ、第三日に^{のぼ}聖書にかないて復活し、天に^{のぼ}入り、父の右に^ざ坐し、^{あらわ}光栄を顕して生ける者と死せし者とを 審判するためにまた来り、その国終りなからんを。

又信ず、^{せいしん}聖神・^{いのち}主・生命を施す者、父より出で、父及び子と共に^ほ捧まれ^{よげんしゃ もつ}讚められ、預言者を以てかつて言いしを。

又信ず、一の^{おおやけ}聖なる公なる使徒の教会を。

我認む、一の洗礼を ^{もつ}以て^{ゆる}罪の赦しを得るを。

我望む、死者の復活、並に^{らいせ}来世の^{いのち}生命を、「アミン」。

[平和の憐れみ(親しみの捧げもの)] Mark BAILEY

輔祭 正しく立ち畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる献物を奉らん、

へい わと あわれみ 讃 揚 の まつり を

主教ディキリ・トリキリで衆人を祝福

主教 願くは我が主イイスス・ハリストスの恩、神父の慈み^{かみちち}聖神の親みは、爾衆人と偕に在らんことを

(詠) 爾の神にも

主教 心上に向ふべし、

(詠) 主に向かへり、

なん じの 神と - も 主 に む か え り

主教 主に感謝すべし

ちちと子と 聖^{せい}一^い神^{しん}、 たいにして分かれざる

聖三者に伏しおがむは 当然にして義なり。

主教 凱歌を歌ひ、よび叫びて曰く、

せーい せーい 聖なるかな 主サヲオフ

The first system of musical notation consists of a grand staff with a treble clef on the upper staff and a bass clef on the lower staff. The key signature has one flat (B-flat). The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the treble staff.

なんじの光えいは 天地にあまねし

The second system of musical notation continues the grand staff from the first system. The lyrics are written below the treble staff.

至とたかきに オサンナ 主の名によつて

The third system of musical notation continues the grand staff. The lyrics are written below the treble staff.

来たるものは あがめ讃めらる

The fourth system of musical notation continues the grand staff. The lyrics are written below the treble staff.

至とたかきに オサンナ

The fifth system of musical notation continues the grand staff. The lyrics are written below the treble staff. The system ends with a double bar line.

主教 取りて食へ、是我が体、爾等の為に擘かるる者、罪の赦を得るを致す。(詠) アミン

主教 皆之を飲め、之我の新約の血、爾等及び衆くの人々の為に流さるる者、罪の赦しを得るを致す、
(詠) アミン

Musical score for the hymn 'Amen'. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature has one flat (B-flat). The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics 'アミン' are written below the treble staff.

主教 爾の賜を、爾の諸僕より、衆の為一切の為に爾に献りて、

司祭 爾の賜を、爾の諸僕より、衆のため一切のために

Musical score for the hymn 'Lord, how great are thy deeds'. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature has one flat (B-flat). The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics '主よ、なんじをあげめうたい' are written below the treble staff.

Musical score for the hymn 'Praise and thanksgiving to you, Lord'. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature has one flat (B-flat). The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics 'なんじを讃め揚げなんじに感謝し' are written below the treble staff.

Musical score for the hymn 'I glorify you, Lord'. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature has one flat (B-flat). The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics 'わがかみやなんじにいのる' are written below the treble staff.

主教 特に至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女・永貞童女マリヤの為、

つねにさいわいにして またくきずなき

生神女わがかみのははなるなんじを

さいわいなりととのうるはまことにあたれり

ヘルビムよりどうとくセラヒムにならびなくさかえ

みさおをやぶらずしてかみことばを生みし



長輔祭 万民をも

(詠) 万民をも <注意！「万民をも」2回>

主教 主や、殊も教会を司る至聖なるモスクワ及び全ロシアの総主教 を記憶し、彼等を平安、無難、尊貴、壮健、長寿なる者、及び爾が真実の言を正しく伝えるものとして、爾の聖なる教会に与え給へ、

司祭 主や尊貴なる我等の(府主教、大主教、主教) ()を記憶し、彼(等)を平安、無難、尊貴、壮健、長寿なる者、及び爾が真実の言を正しく伝えるものとして、爾の聖なる教会に与え給へ、

輔祭 主や、我等の尊貴なる東京の大主教及び全日本の府主教ダニイル、今この至尊なる祭品を我等の主神に献げ奉る者の為、至聖なるモスクワ及び全ロシアの総主教アレキシイ、尊貴なる府主教、大主教、主教の救の為、司祭の尊品、ハリストスによる輔祭職、悉くの教衆及び修道士の為、この街と凡その町におる真のハリストイアニンの救われんが為、病の床に伏す者、縛らるる者、虜となりし者のまぬかれんが為、遠く祖国を離れて異郷に抑留せられたる者の解放せられんが為、今この聖堂に立ちて祈る衆兄弟の救の為、衆人の為、一切の為、

(詠) 万民をも

主教 並びに我等に口を一にし心を一にして、爾父と子と聖神の至尊至厳の名を讃栄讃頌するを賜へ、今も何時世世に、

(詠) アミン

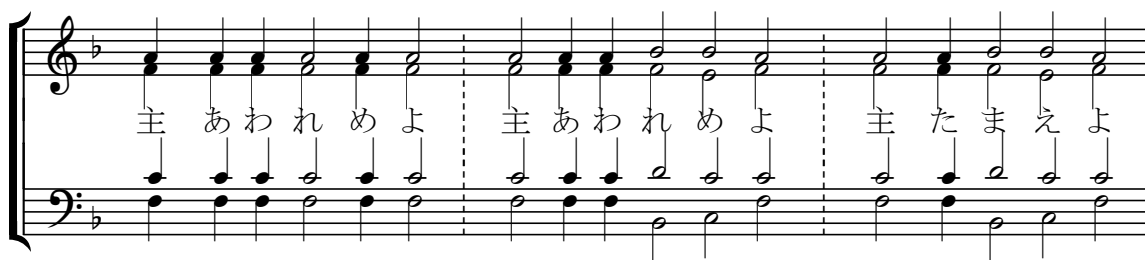
主教 願くは大なる神、我が救主イイスス・ハリストスの憐みは、爾衆人と偕に在らんことを

(詠) 爾の神にも



[増連禱]

輔祭 我等諸聖人を記憶して復又安和にして主に祈らん (詠) 主憐めよ
 輔祭 已に献ぜられ及び聖にせられし尊き祭品の為に主に禱らん、
 輔祭 人を愛する我が神が、之を其の聖なる天上の無形の祭壇に置き、屬神の馨香として享け、我等に報いて、神妙の恩寵と聖神^oの賜とを降すが為に禱らん、
 輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん、
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、
 輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、
 輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、
 輔祭 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、
 輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、
 輔祭 我等の生命の終が「ハリストシアニシ」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、
 輔祭 信の同一と聖神の体合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に
 主教 主宰や、我等に、勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神・父をよびて言ふを賜へ、



[天主經] **全員で歌う、単音**

全員 天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に与え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、なお我等を凶悪より救い給え、

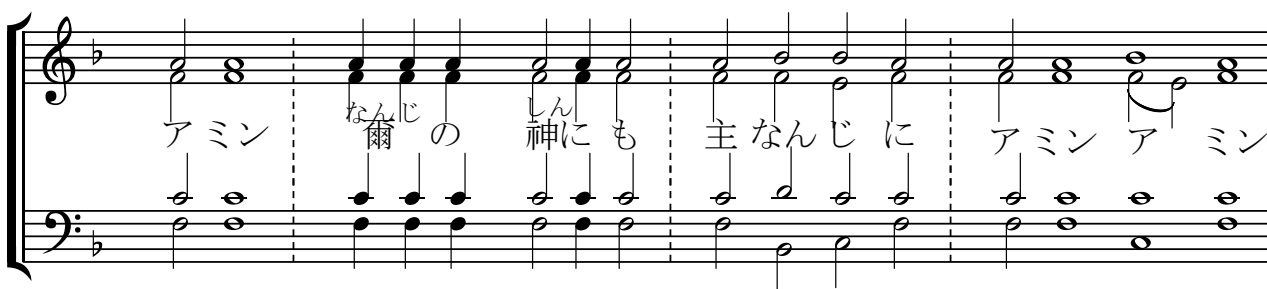
Πάτερ ἡμῶν, ὁ ἐν τοῖς οὐρανοῖς· ἀγιασθήτω τὸ ὄνομά σου· ἐλθέτω ἡ βασιλεία σου· γενηθήτω τὸ θέλημά σου, ὡς ἐν οὐρανῷ καὶ ἐπὶ τῆς γῆς. Τὸν ἄρτον ἡμῶν τὸν ἐπιούσιον δὸς ἡμῖν σήμερον· καὶ ἄφευς ἡμῖν τὰ ὀφειλήματα ἡμῶν, ὡς καὶ ἡμεῖς ἀφίεμεν τοῖς ὀφειλέταις ἡμῶν· καὶ μὴ εἰσενέγκῃς ἡμᾶς εἰς πειρασμόν, ἀλλὰ ῥῦσαι ἡμᾶς ἀπὸ τοῦ πονηροῦ.

Отче наш, Иже еси на небесех! Да святится имя Твое, да приидет Царствие Твое, да будет воля Твоя, яко на небеси и на земли. Хлеб наш насущный даждь нам днесь, и остави нам долги наша, якоже и мы оставляем должником нашим, и не введи нас во искушение, но избави нас от лукаваго.

Tatăl nostru, Care ești în ceruri, sfințească-se numele Tău, vie împărăția Ta, făcă-se voia Ta, precum în cer așa și pe pământ; pâinea noastră cea spre ființă dă-ne-o nouă astăzi, și ne iartă nouă greșelile noastre, precum și noi iertăm greșiților noștri, și nu ne duce pe noi în ispită, ci ne izbăvește de cel rău.

Our Father, who art in the Heaven, hallowed be Thy name, Thy Kingdom come, Thy will be done on earth as it is in heaven, Give us this day our daily bread, and forgive us our debts, as we forgive our debtors; and lead us not into temptation, but deliver us from the evil one.

主教 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、(詠) **アミン**
 主教 衆人に平安 (詠) **爾の神にも**
 輔祭 爾等の首を主に屈めよ、(詠) **主爾に、**
 主教 爾が独生子の恩寵と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に讃揚せらる今も何時も世世に、
 (詠) **アミン**



輔祭 謹みて聴くべし
 主教 聖なる物は聖なる人に

聖なるはただひとり、主なるはただひとり

かみちちこうえいあらわ
 神・父の 光栄を顕す イイスス・ハリストス なり アミン

[領聖詞][148聖詠]

天より主を讃め揚げよ、いとたかきに

繰り返す

かれを讃め揚げよ。アリールイヤ、

アリールイヤ、アリールイヤ

輔祭 神を畏るる心と信とを以て近づき来たれ、

主の名に 依^よって 来たる者は 崇^{あが}め 讃めらる

主は かみ なり 我等 を 照らせり。

[領聖祝文]

主や、我信じ且承け認めて、爾を實にハリストス生活の神の子、罪人を救うが為に世に
来たりし者となす、衆罪人のうち我第一なり、また信ず、此は乃ち爾が至浄の体、此は
乃ち爾が至尊の血なりと、故に爾に祈る、我を憐み、我が自由と自由ならずして、言と
行いにて、知ると知らずして、犯しし諸罪を赦し給へ、並びに我に定罪なく、爾が至上
なる機密を領けて、罪の赦しと永生を得るを致させ給へ、「アミン」

神の子や、今我を爾が機密の筵に與る者として容れ給へ、蓋我爾の仇に機密を告げ
ざらん、又、爾にイウダの如き接吻を為さざらん、乃ち右盜の如く爾を承け認めて
曰ふ、主や爾の国に於いて我を記憶せよ、と。

主や祈る爾の聖なる機密を領くるは、我が為に審案或いは定罪とならず、乃ち靈体の醫
しとならんことを。アミン

[領聖]

Nina H. 編曲

ハリスのせいたいを領け 不死のいずみを飲めよ

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

主教 神や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降せ、

領聖が終わる。主教祝福。「イスボラ」を歌う。

イ ス ポ ラ エ テ イ デ ス ポ タ

続いて「すでに真の光を見」を歌う

^{すで} ^{まこと}
 既に 真の ひかりを見 天の 聖神を受け

正しき *^信 教えを得て わかれざる 聖三者をおがむ

*信

彼 我等を 救いたまえば なり

司祭 今も何時も世世に、

アミン 主や、爾の光栄を 歌わ—んに ^ほ 讃め歌を以て 我が口に

満たしめ たまえ ^{いのち} ^{ほどこ} 生命を 施す 聖なる 爾の ^{きみつ} 機密を受くるを

われらに許せばなり 祈る我等を ^{いさぎよ}潔きにまもり 日々に

^{ならわ}爾の道を傲わしめた まえ アリルイヤ、アリルイヤ アリルイヤ

輔祭 謹みて立て、神聖、至浄、不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの聖機密を領けて、宜しく主に感謝すべし、

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ、主憐めよ

輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に

主教 蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神^oに献ず、今も何時も世世に、

(詠) アミン

主あわれめよ 主あわれめよ 主なんじに アミン アーミン

主教 平安にして出づべし、

(詠) 主の名に因りて

輔祭 主に祷らん、

(詠) 主憐めよ

主の名によつて 主 あわれめよ

司祭 [升壇外の祝文]

爾を讃揚する者に福を降し、及び爾を恃む者を聖にする主や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業

に福を降し、爾が教会の充満を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力を以て彼等を光榮し、及び我等爾を恃む者を遺すなかれ、爾の世界と爾の諸教会と諸司祭と、我国の天皇及び国を司る者、及び爾の衆人為に平安を賜へ、蓋凡その善なる施し、凡その全備なる賜は、上より爾光明の父より降るなり、我等光榮感謝伏拝を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

主教 願くは主の降福は、その恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、

(詠)「アミン」

アミン 願わくは 主の名は崇め讃められ、今より 世世にいたらん (2回)

願わくは 主の名は崇め讃められ、今より 世世にいたらん アミン

主教 ハリストス神我等の恃みや、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す、

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も 世世に アミン

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ 福をくだせ アミン

主教 [発放詞] 死より復活せしハリストス我等の眞の神は、その至浄なる母、光榮にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父コンスタンティノポリの大主教金ロイオアン、(当日の聖人)及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

(詠) アミン

[萬寿詞]

アミシ カミヤ 我が国の天皇 及び国を 司 どのもの

我等の府主教ダニイル、及び 主教セラ フィム 及び悉くの正教の

ハリスティアニン 等を いくとせにも まもり たまえ

いくとせも

い く と せ も い く と せ も

The first system of music consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a common time signature (C). It contains two measures of music, each with a vocal line and a piano accompaniment. The lyrics 'い く と せ も' are written below the notes. The second measure repeats the same phrase. The piano accompaniment features chords and moving lines in both hands.

い く と せ も い く と せ も

The second system of music also consists of two staves. It follows the same format as the first system, with two measures of music and the lyrics 'い く と せ も' repeated. The musical notation includes various note values and rests, with the piano accompaniment providing harmonic support.

い く と せ も い く と せ も

The third system of music consists of two staves. It continues the piece with two measures of music and the lyrics 'い く と せ も' repeated. The piano accompaniment includes a large circular slur over a group of notes in the second measure, indicating a specific phrasing or articulation.

△, ガ ヤ レ タ

カスタルスキー

△, ガ ヤ レ タ △, ガ ヤ レ — タ

△, ガ ヤ レ タ △, ガ ヤ レ — タ

This system contains three staves of handwritten musical notation. The top staff is in treble clef with a 3/4 time signature. The middle staff is also in treble clef. The bottom staff is in bass clef. The lyrics are written below the staves, with some words underlined. There are some numerical markings (like 31, 41, 71) above the notes, possibly indicating fingerings or measure numbers.

△, — — — ガ ヤ △, ガ ヤ レ — — — タ

△, — — — ガ ヤ △, ガ ヤ レ — — — タ

This system continues the musical score with three staves. The notation is similar to the first system, with treble and bass clefs and 3/4 time signature. The lyrics are written below the staves, with some words underlined. There are numerical markings (like 21, 31, 41, 71) above the notes.

System 1: Treble and bass staves. Treble staff lyrics: ム, が"ヤ ム, が"ヤ レタ レタ. Bass staff lyrics: ム, が"ヤ レタ レタ.

System 2: Treble and bass staves. Treble staff lyrics: ム, が"ヤ レ タ ム, レタ レタ ム,. Bass staff lyrics: ム, が"ヤ レタ.

System 3: Treble and bass staves. Treble staff lyrics: が"ヤ レ. タ ム, が"ヤ レタ ム, が"ヤ レタ ム, が"ヤ. Bass staff lyrics: ム, が"ヤ レタ.

System 4: Treble and bass staves. Treble staff lyrics: ム, が"ヤ レ タ. Bass staff lyrics: が"ヤ ム, ...

主教マンティアを着装し退堂

主教退堂の時「トンデスポティン」を歌う。

トン・デスポティン

トン デス ポ ティン ケ ア ヒ エ レ ・ ア イ

The first system of musical notation for 'Ton Despotin'. It consists of a treble clef staff and a bass clef staff, both in the key of D major. The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the treble staff.

モン キ リ エ フイ ラ

The second system of musical notation. It continues the melody and accompaniment from the first system. The lyrics are written below the treble staff.

テ イ ス ボ ラ エ ティ イ ス ボ ラ エ

The third system of musical notation. It continues the melody and accompaniment. The lyrics are written below the treble staff.

ティ イ ス ボ ラ エ ティ デ ス ボ タ

The fourth system of musical notation, which concludes the piece. The lyrics are written below the treble staff.